



Japan Society for Tobacco Control

日本禁煙学会

<http://www.jstc.or.jp/> E-mail [desk@nosmoke55.jp](mailto:desk@nosmoke55.jp)  
〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町 30-5-201  
Tel 03-5360-8233 FAX 03-5360-6736

日本禁煙学会理事長 作田 学

## 1-2) ニコチンパラドックス説はどこから来たのか 2021/6/18

ニコチンがコロナを防ぐというフレンチスタディの内実についての BMJ の取材記事を翻訳しました。

日本でも週刊新潮や、プレジデントオンラインで飯島勲氏が伝えていました。

『デイリー新潮』（週刊新潮） 2020 年 5 月 21 日号掲載

「ニコチンにコロナ抑制効果」は本当か フランスからの研究報告

<https://www.dailyshincho.jp/article/2020/05240558/?all=1>

「タバコ喫煙者はコロナ感染から守られる」決定的証拠 タバコが救う人間の命

プレジデント 2020 年 7 月 31 日号 <https://president.jp/articles/-/37802>

これらの記事は、いったいどこから来たのかという問題を明らかにします。

BMJ 特集：研究の健全性

ハームリダクションを支持する人々とタバコ産業がコロナパンデミックに乗じてニコチン使用を勧めている

Horel S (investigative journalist, Le Monde) , Keyzer T. Covid 19: How harm reduction advocates and the tobacco industry capitalised on the pandemic to promote nicotine. BMJ. 2021 Jun 2;373:n1303. doi: 10.1136/bmj.n1303. PMID: 34078640.

日本禁煙学会 理事 松崎道幸・訳

喫煙者が新型コロナに感染しにくいと主張する論文がタバコ産業の資金を受けていることが分かり、その内容に疑問が高まっている。本誌 (BMJ) は、ルモンドのステファン・

## ホレル氏に取材を依頼した。

コロナパンデミックの初期に中国とフランスから、患者に喫煙者が少ないという論文が出され、メディアの注目を浴びた。「ニコチンがコロナ感染を押さえるかも？」という見出しが踊った。

このバズは、2020年4月にフランスのピティエ=サルペトリエール病院のザヒル・アムウラ氏のチームがプレプリントサーバーに連投した二つの論文から始まった。最初の論文で新型コロナ患者の喫煙率が5%と報告[1]、2番目の論文[2]でニコチンにはウイルスの入り口のACE2受容体を減らす作用があるという仮説を述べていた。「ニコチンを吸入すると新型コロナウイルス感染を効果的に防ぐことができる可能性がある」と述べていた。

世界中のメディアがこれを発信した。イギリスのリバタリアンメディアであるオンラインマガジン **Spiked** もこの話を報道した。タバコ産業がスポンサーとなっているシンクタンク **Institute of Economic Affairs** のライフスタイル経済学部門長クリストファー・スノードン氏は「タバコを吸って、いのちを守ろう」と呼びかけた。

WHOは、長年のタバコ規制活動の成果が損なわれかねないと憂慮した。フレンチスタディに対してWHOは「喫煙はがん、心臓病、呼吸器疾患、糖尿病、高血圧をもたらす年間800万人以上の命を奪っている。喫煙が新型コロナに感染した人々の重症化と死亡をもたらしていることは明確である」と述べた。

喫煙が新型コロナを防ぐという主張はその後、完全に否定された。それらを証明した論文の中で、1730万人の成人を含む **Open Safety** データによれば、年齢、性別の調整後、喫煙が新型コロナによる死亡リスクを14%増加させることが示されている[3-6]。

本誌 (BMJ) は、新型コロナに関する多くの論文を発表してきた複数の研究者が紙巻き

タバコ、電子タバコメーカーから資金を受け取っていたにもかかわらずそれを隠していたという COI 違反の事実を報告する。ちなみに、二人の著者の COI 開示に不正があったとして、先月 *European Respiratory Journal* に発表された論文が取り下げられた[7]。

### 当初から懸念されていた

Tobacco watchdogs（タバコ産業の動向を監視するチーム）は、ニコチンが新型コロナを予防できそうだとするプレプリントのフレンチスタディ論文が公表されてから関心と懸念を持っていた[2]。それは共著者の一人の名前を見たためである。この人物は元コレージュ・ド・フランス、ニコチン受容体の専門家で神経科学の重鎮ジャン・ピエール・シャングー氏である。彼は、多くのタバコ産業のフロント組織である *Council for Tobacco Research* から資金を提供されてきた人物である。この組織は喫煙の健康被害に疑問を呈し、ニコチンが有用であることを宣伝する役割を果たしてきた[8]。1995年から1998年にシャングー氏のラボに22万ドルの資金が *Council for Tobacco Research* から提供されていたことがタバコ産業の内部文書で明らかにされている。

シャングー氏は *BMJ* 論文の著者らに「不幸にも私に関するフェイクニュースが広がっている」とメールを送っていた。彼は、1990年以降タバコ産業からの直接および間接的資金援助は一切受けていないと断言した。

このパリ論文の前に、ギリシャの研究者コンスタンティノ・ファルサリノス氏がこのテーマについて最初の論文を発表していた。彼は新型コロナ入院患者には喫煙者が少なく、これは ACE2 受容体の機能に関連しているのであろうと述べていた[9]。電子タバコについてのデータがないにもかかわらず、彼はニコチンの保護作用は電子タバコにおいても同様に期待できるだろうと述べていた。その後ファルサリノス氏は「ニコチン仮説」の第一人

者として 10 本以上の論文を投稿した。タバコ産業の組織である Global Tobacco and Nicotine Forum にも論文を書いている。2020 年 9 月、彼は「新型コロナとのたたかひにおけるニコチンの役割」と題して、ラッキーストライクを製造する BAT の科学研究ディレクターとともにパネル講演を行っている。

ギリシャ Patras and West Attica 大学の心臓専門医でもあるファルサリノス氏は、自分のブログで「電子タバコの分野で最高の研究者」とであると自認している。彼は積極的に電子タバコ使用を勧めるオンラインコミュニティ上で「ドクター F」と呼ばれている有名人である。2011 年から 100 を超える電子タバコ関連の科学論文を発表している。

### **タバコハームリダクション**

ファルサリノス氏は 10 年以上、電子タバコとタバコハームリダクション (THR) を積極的に推進する科学者とコンサルタントの小グループの中核として、ロビーイング活動を進めてきた。WHO、欧州議会、欧州委員会、各国政府などに書簡を送り、政策決定者に「ハームリダクション」戦略実行を鼓舞してきた。THR はもともと、ドラッグ治療から派生した手法で、禁煙できない紙巻きタバコ使用者に「低リスク製品」としての「燃焼によらない」ニコチン製品に乗り換えることを勧めるというものである。

THR には、タバコ産業あるいは電子タバコ産業が推進するだけでなく、それらとつながりを持たない公衆保健専門家や消費者グループもまた喫煙問題を解決するための「ソリューション」として推進しているという複雑な状況がある。例えばイギリスでは、National Institute for Health and Care Excellence (国立健康ケア・エクセレンス研究所) と Royal College of Physicians (王立医科大学) がハームリダクションをタバコ対策の基本対策として承認している。Action on Smoking and Health の代表でインペリアルカレッ

ジの呼吸器疾患准教授のニック・ホプキンソン氏は「タバコ産業には断固として反対するが、電子タバコが比較的安全で効果があるということを根拠に、タバコハームリダクションを承認している人々が居る」と述べている

Tobacco Control 誌の編集長ルース・マローン氏は最近「新しいニコチン、タバコ製品 (NNNTPs) がもぐらたたきのように発売されており、国や地域によってそれに対するアプローチがさまざまである。流砂の上に立っていることが難しいのと似た状況だ。新たなニコチン・タバコ製品が発売されることで、それに対応する研究、分類、対策実施のために多くのタバコ規制のための資源が割かれ、基本的なタバコ対策に支障をきたしている」とする論説を発表している[10]。

WHO は THR を推奨しておらず、政策決定者に電子タバコ製品も有害であると警告している。「使用が始まって十分な時間が経っておらず、健康被害の全貌が不明である」[11,12]と。

しかしタバコ産業は加熱式タバコや電子タバコなどの新製品を売るために再び THR 論を使い始めている。最大のタバコ企業、フィリップモリス・インターナショナルは 2014 年にアイコスを猛烈に売り込み始めた。2019 年、この会社の売り上げの 19%、61 億ドルがスモークレス製品である。

Qeios ウェブサイトに投稿された彼のプレプリント論文[7]はほとんど気付かれないうちに取り下げられたが、2020 年 4 月に、ファルサリノス氏は Toxicology Reports 誌のエディトリアルで「ニコチン仮説」を科学雑誌に公式に発表し、この仮説の最初の提唱者となった[13]。この雑誌の編集長アリスティディス・タサツキス氏の名前はプレプリント論文には記載されていなかったが、正式掲載時には共著者となっていた。別の THR 論文に

は、2013年のフィリップモリス・インターナショナルの科学諮問委員会メンバーで、このタバコ会社の有給コンサルタントをつとめていたウォレス・ヘイズ氏も著者として名を連ねている[14,15]。

## **パトラス大学とタバコ産業**

Toxicology Reports 誌のニコチン仮説についてのエディトリアルの共著者であるコンスタンティノス・プーラス氏は、ファルサリノス氏の勤めるパトラス大学分子生物免疫実験室長である[16]。この実験室にはギリシャの最大の電子タバコメーカーNobacco から資金が提供されている[17]。この資金は年間7万5千ユーロ（約1千万円）で、ニコチン入り電子タバコリキッドの開発に充てられた[18-20]。Nobacco は2018年からBATのニコチン供給デバイスの独占販売を行っている[21]。ファルサリノス氏もプーラス氏も、彼らの論文のCOIでNobacco社からの資金提供を開示していない。二人とも、2014年のNobaccoプロジェクト開始の記者会見に出席している[22]。プーラス氏はこの論文に対する多くのコメントに回答を行っていない。ファルサリノス氏は、パトラス大学とNobaccoの関連について知らず、そのことを申告できなかったと電子メールで回答している。「企業が資金を出すいかなるプロジェクトにも参加したことはない」と述べ、本誌(BMJ)を「魔女狩りだ」と非難している。Nobacco社は、本誌がコンタクトしたすぐ後に、二人との関係を記載したウェブページを削除した。

## **研究資金の提供**

このような状況にもかかわらず、ファルサリノス氏は、American E-Liquid

Manufacturing Standards Association（米国eリキッド製造規格協会）から、2論文の

発表と 2014 年に米国の規制当局との会合に専門家として参加したことに対し金銭を受け  
とっている[23,24]。科学雑誌に発表した論文の利害関係の申告を調べると、彼は 2013 年  
の電子タバコに関する初期研究に対して Tennessee Smoke Free Association（電子タバ  
コによる THR 推進団体）[25]、 FlavourArt（e リキッド製造会社）[26]、Nobacco 社  
[26]から資金を受け取っていることを開示している。

いっぽう、プーラス氏は 2019 年に発表した論文で「Foundation for a Smoke Free  
World から多大なグラントが寄せられた」と COI を開示している。この Foundation は  
フィリップモリス・インターナショナルが 2017 年に設立した NPO で、「ハームリダクシ  
ョン・サイエンス」の振興のために、12 年間に 10 億ドルの資金を提供するという約束で  
設立されている。4 年後の今になっても、フィリップモリス・インターナショナルが唯一  
の資金提供者となっている。「喫煙をこの世代で終わらせるために」と称して、百万ドル  
単位のグラントをばらまいているこのファンドの活動は、20 世紀末に、喫煙の有害性に  
関する科学的知見を否定するために設立した数多くのフロントグループの活動を想起させ  
る[28]。このファンドが設立されたことを受け、WHO タバコ規制枠組条約事務局は、こ  
のような動きを「公共的政策を妨害してタバコ規制枠組条約実施を食い止めようとする明  
らかな違反行為である」と警告した。北米の著名 17 大学の公衆衛生学部を含む 400 以上  
の組織団体は、Smoke Free World からの資金提供を拒否することを明らかにしている。  
彼らが受け取った二つのグラントの出どころはまさしく THR に関する「リサーチ・イノ  
ベーションを推進する研究機関」の育成を目指す「パトラス大学サイエンスパーク」に対  
するタバコ産業の資金である[29,30]。アメリカ政府の課税資料によれば、このグラント  
は 8 万 3 千ユーロ（1 ユーロ 130 円台なので 1 千万円くらいか）だが、このファンドのウ

ウェブサイトでは非公表である[31]。この資金はプーラス氏が主宰する NOSMOKE という大学における start-up incubator（新たな事業を起こす人々の支援事業）に配布された。この事業は「オーガニック」な電子タバコ製品を作ることを目的としている。

## 論文取り下げ

3月に European Respiratory Journal は、2020年に発表されたプーラス氏とファルサリノス氏らの論文について「著者のうち2名が、論文投稿時に COI の申告を行わなかった」として、その論文が取り下げられたことを告知した[32]。プーラス氏はフィリップモリス・インターナショナルが設立した NOSMOKE に関係していることを申告していなかった。同様に共著者のホセ・ミエ氏もハームリダクションコンサルタントとしてタバコ産業のために活動していた経歴を隠していた。取り下げられた論文には、新型コロナに感染して入院した場合「喫煙歴があることで重症化することは観察されなかった」という記述があり、喫煙者は新型コロナ感染リスクが明らかに低かったと述べられている[32]。

このファンドは「新型コロナがニコチンで防げる」仮説に多額の資金を支出している。

2020年6月、「喫煙・ニコチン使用と新型コロナ感染・重症化の関連を解明する」と称して90万ユーロ（1億2千万円）を支出すると述べている。2021年3月、このファンドは、米国のコンサルタント会社 BOTEC Analysis にこの資金の配布を委嘱した[33]。

「もし紙巻きタバコを売る商売のしりぬぐいをしなければならぬとすれば、それは我々の仕事だ」と BAT の重役が1992年に言明していた。これは UCSF のドリー・アオロニオ氏とスタントン・グランツ氏がタバコ産業の内部文書から発掘した資料に書かれている。2021年、コロナパンデミックが世界中に吹き荒れている時にタバコ産業は、ニコチン製剤が、自分達が作り出した紙巻きタバコ依存症問題を解決する切り札であり、煙の出

ないタバコ製品が、その解決のために必要であると政策決定者を説き伏せる活動を盛んに行っている。ニコチンが紙巻きタバコ依存と新型コロナウイルス感染症収束の切り札となるという口実で **THR** を勧めているわけだ。

以上

#### 【引用文献】

1. Miyara M, Tubach F, Pourcher V, et al. Low rate of daily active tobacco smoking in patients with symptomatic COVID-19. *Qeios*. 9 May 2020. <https://www.qeios.com/read/WPP19W.4>.
2. Changeux JP, Amoura Z, Rey FA, et al. A nicotinic hypothesis for Covid-19 with preventive and therapeutic implications. *Qeios*. 22 Apr 2020. <https://www.qeios.com/read/FXGQSB.2>.
3. Hopkinson NS, Rossi N, El-Sayed Moustafa J, et al. Current smoking and COVID-19 risk: results from a population symptom app in over 2.4 million people. *Thorax* 2021 (published online 5 Jan). doi: 10.1136/thoraxjnl-2020-216422.
4. Jackson SE, Brown J, Shahab L, et al. Covid-19, smoking and inequalities: a study of 53 002 adults in the UK. *Tob Control* 2020 (published online 21 Aug). doi: 10.1136/tobaccocontrol-2020-055933.
5. Holt H, Talaei M, Greenig M, et al. Risk factors for developing COVID-19: a population-based longitudinal study (COVIDENCE UK). *medRxiv* 2021 [preprint]. doi: 10.1101/2021.03.27.21254452.
6. Williamson EJ, Walker AJ, Bhaskaran K, et al. Factors associated with COVID-19-related death using OpenSAFELY. *Nature* 2020;584:430-6. doi: 10.1038/s41586-020-2521-4. pmid: 32640463
7. Retraction notice for: “Characteristics and risk factors for COVID-19 diagnosis and adverse outcomes in Mexico: an analysis of 89,756 laboratory-confirmed COVID-19 cases.” Theodoros V. Giannouchos, Roberto A. Sussman, José M. Mier, Konstantinos Poulas and Konstantinos Farsalinos. *Eur Respir J* 2020; in press. *Eur Respir J* 2021;57:2002144. doi: 10.1183/13993003.02144-2020. pmid: 32732325
8. Leloup D, Foucart S. Comment le lobby du tabac a subventionné des labos français [How the tobacco lobby subsidised French labs]. *Le Monde* 2012 May 31. [https://www.lemonde.fr/sciences/article/2012/05/31/guerre-du-tabac-la-bataille-de-la-nicotine\\_1710837\\_1650684.html](https://www.lemonde.fr/sciences/article/2012/05/31/guerre-du-tabac-la-bataille-de-la-nicotine_1710837_1650684.html). (In French.)
9. Farsalinos K, Barbouni A, Niaura R. Smoking, vaping and hospitalization for COVID-19. *Qeios*. 4 Apr 2020. <https://www.qeios.com/read/Z69O8A.13>.
10. Malone RE. Finding ‘common ground’ on shifting sands: observations on the conflicts over product regulation. *Tob Control* 2021;30:119-20. doi: 10.1136/tobaccocontrol-2021-056529 pmid: 33619207
11. World Health Organization. Heated tobacco products: information sheet (2nd ed).

- 10 Jul 2020. <https://www.who.int/publications/i/item/WHO-HEP-HPR-2020.2>.
12. World Health Organization. E-cigarettes are harmful to health. 5 Feb 2020. <https://www.who.int/news/item/05-02-2020-e-cigarettes-are-harmful-to-health>.
13. Farsalinos K, Niaura R, Le Houezec J, et al. Editorial: Nicotine and SARS-CoV-2: COVID-19 may be a disease of the nicotinic cholinergic system. *Toxicol Rep* 2020;7:658-63. doi: 10.1016/j.toxrep.2020.04.012. pmid: 32355638
14. Flouris AD, Chorti MS, Poulianiti KP, et al. Acute impact of active and passive electronic cigarette smoking on serum cotinine and lung function. *Inhal Toxicol* 2013;25:91-101. doi: 10.3109/08958378.2012.758197. pmid: 23363041
15. Wallace Hayes A, Muriana A, Alzualde A, et al. Alternatives to animal use in risk assessment of mixtures. *Int J Toxicol* 2020;39:165-72. doi: 10.1177/1091581820905088. pmid: 32066298
16. E-cigarette Research. Konstantinos Farsalinos, curriculum vitae. [http://www.ecigarette-research.org/research/images/CV\\_FARSALINOS\\_12-2020.pdf](http://www.ecigarette-research.org/research/images/CV_FARSALINOS_12-2020.pdf).
17. Nobacco. Research & development. <https://web.archive.org/web/20201211082254/https://www.nobacco.gr/en/research-development>.
18. Informatics Development Agency. Minutes of the 488th meeting of the research committee of the University of Patras of 05/12/2016. 13 Dec 2016. <https://diavgeia.gov.gr/doc/7%CE%99%CE%93%CE%A9469%CE%927%CE%98-%CE%A4%CE%A5%CE%9B?inline=true>. (In Greek.)
19. University of Patras Department of Pharmacy. Annual internal report of the academic year 2017-2018. 2018.
20. University of Patras Department of Pharmacy. Annual Internal Report of the Academic Year 2017-2018. 2019.
21. Nobacco financial statements FY2018. 2019. <https://www.businessregistry.gr/downloadFile/index?key=assemblyDecision&elementId=1988912>. (In Greek.)
22. Iefimerida, Έλληνες επιστήμονες ανοίγουν τον διάλογο για το ηλεκτρονικό τσιγάρο μ ε πρωτοβουλία της Nobacco [Greek scientists open dialogue on e-cigarette on Nobacco initiative]. 5 Nov 2014. <https://bit.ly/3uKoLnl>. (In Greek.)
23. American E-Liquid Manufacturing Standards Association. AEMSA sponsors clinical study and returns to the FDA with Dr Farsalinos to present in 3rd “listening session”. 21 Dec 2013. <https://web.archive.org/web/20201216213137/https://www.aemsa.org/aemsa-sponsors-clinicalstudy>.
24. E-cigarette Research. Presenting to the FDA real evidence about e-cigarettes US regulators and advocates showing the road to the Europeans. 21 Dec 2013. <http://www.ecigarette-research.org/research/index.php/whats-new/whatsnew-2013/146-fda-meeting>.
25. Farsalinos K, Abrams D, Niaura R. Can the association between electronic-

- cigarette use and stroke be interpreted as risk of stroke? *Am J Prev Med* 2020;58:895-6. doi: 10.1016/j.amepre.2020.01.020. pmid: 32444005
26. Bates CD, Farsalinos KE. Research letter on e-cigarette cancer risk was so misleading it should be retracted. *Addiction* 2015;110:1686-7. doi: 10.1111/add.13018 pmid: 26350716
  27. Isik Andrikopoulos G, Farsalinos K, Poulas K. Electronic nicotine delivery systems (ENDS) and their relevance in oral health. *Toxics* 2019;7:61. doi: 10.3390/toxics7040061. pmid: 31817732
  28. Malone RE, Chapman S, Gupta PC, et al. A “Frank statement” for the 21st century? *Tob Control* 2017;26:611-2. doi: 10.1136/tobaccocontrol-2017-054080. pmid: 29066592
  29. Foundation for a Smoke-Free World. Awarded grants: Patras Science Park SA—Biohealth Hub. May 2018.  
<https://web.archive.org/web/20201216213720/https://www.smokefreeworld.org/awarded-grants/nosmoke-team-based-in-the-patras-science-park>.
  30. Foundation for a Smoke-Free World. Awarded grants: Patras Science Park SA—Biohealth Hub. Nov 2018.  
<https://web.archive.org/web/20201216214102/https://www.smokefreeworld.org/awarded-grants/patras-science-park-s-a-biohealth-hub>.
  31. Department of the Treasury, Internal Revenue Service. Form 990-PF. Foundation for a Smoke-Free World, Inc 2019.
  32. Giannouchos TV, Sussman RA, Mier JM, Poulas K, Farsalinos K. Characteristics and risk factors for COVID-19 diagnosis and adverse outcomes in Mexico: an analysis of 89 756 laboratory-confirmed COVID-19 cases. medRxiv 2020.06.04.20122481. doi: 10.1101/2020.06.04.20122481. Now retracted from *European Respiratory Journal* doi: 10.1183/13993003.02144-2020.
  33. Foundation for a Smoke-Free World. Awarded grants: Covid.  
[https://web.archive.org/web/20210422140523/https://www.smokefreeworld.org/awarded-grants/?\\_sf\\_s=COVID](https://web.archive.org/web/20210422140523/https://www.smokefreeworld.org/awarded-grants/?_sf_s=COVID).